

令和3年度シラバス

言語聴覚士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
失語症Ⅱ（評価、訓練）		講義	今井 絵美子・高橋 朋佳	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
失語症リハビリテーションは言語能力の回復だけではなく、個人の復権を目指すものである。失語症Ⅰで学んだ基礎知識を応用して、症例の全体像を把握できるようになることを目的とする。治療理論を理解し、それに基づいた訓練立案ができるようになること、および、オリジナルな訓練教材を作成して実演できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・症例の失語症状を専門用語を用いて説明することができる。 ・失語症治療理論に基づいた訓練立案ができる。 ・訓練教材を作ることができる。 ・訓練を実演することができる。 				
授業計画				
回	内容			
1	基礎知識の整理(1)		(高橋)	
2	基礎知識の整理(2)		(高橋)	
3	治療理論(1) 概説		(今井)	
4	治療理論(2) 刺激法、遮断除去法		(今井)	
5	治療理論(3) 機能再編成法、認知神経心理学的アプローチ		(今井)	
6	治療理論(4) プログラム学習法、その他		(今井)	
7	訓練立案(1) 呼称、発語		(今井)	
8	訓練立案(2) 文字		(今井)	
9	訓練立案(3) 構文、理解		(今井)	
10	訓練立案(4) まとめ		(今井)	
11	症例検討(1) 評価、目標設定①		(今井)	
12	症例検討(2) 訓練立案、教材作成①		(今井)	
13	症例検討(3) 評価、目標設定②		(今井)	
14	症例検討(4) 訓練立案、教材作成②		(今井)	
15	まとめ		(今井)	
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	失語症状を説明し、治療理論に基づいた訓練立案・教材作成ができる点を評価基準とする。		
レポート	10%	授業中に行う症例検討への取り組み、教材作成をもとに評価する。		
小テスト				
平常点	10%	授業態度や予習復習によって評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版	藤田郁代		医学書院	
脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂第2版	竹内愛子・河内十郎		協同医書出版社	
臨床力up！ 動画と音声で学ぶ 失語症の症状とアプローチ	森田秋子・春原則子		三輪書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
失語症訓練の考え方と実際 ー新人STへのヒント	鈴木勉		三輪書店	
自由記載				
備考				